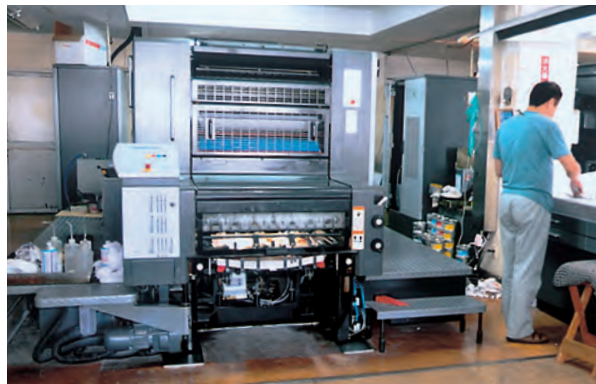


聖母の騎士社 印刷所



聖母の騎士修道院・聖コルベ記念館への案内図



●長崎駅より車で約7分 ●電車は③蛭茶屋ゆき終点下車。降りた方向、山手に十字架が見えます。徒歩10分 ●県営バス(駅前交通会館より)網場・古賀・矢上・つつじヶ丘・諫早方面ゆき・番所バス停下車5分。

「けがれなき聖母を愛しなさい  
聖母を愛する人は、真の幸福を発見します。」  
聖コルベ神父のことば



ロザリオの玄義のレリーフとルルドへの参道



1933(昭和8)年にコルベ神父が開いたルルド

**聖母の騎士修道院**  
〒850-0012長崎市本河内2-2-1 TEL.095-824-2079  
**聖コルベ記念館**  
〒850-0012長崎市本河内2-2-1 TEL.095-824-2075

“CITY OF THE IMMACULATE”  
**SEIBO NO KISHI**

FOUNDED BY  
ST. MAXIMILIAN KOLBE NAGASAKI, JAPAN.  
**INFORMATION**



聖マキシミアノ・コルベ神父ゆかりの

**聖母の騎士修道院**  
**聖コルベ記念館**

**聖者コルベ神父と  
聖母の騎士**

友のために生命を捨てる  
これ以上の愛はない

コルベ神父(ポーランド人)はキリストの教えを広めるために1930(昭和5)年4月24日、長崎に上陸した。1ヵ月後、布教のための月刊誌『聖母の騎士』を創刊。その後1年間(1930年4月~翌年5月まで)仮修道院として、Br.ゼノと数人の兄弟たちが生活し、使用した暖炉が大浦天主堂下の旧雨森病院跡(現、高山氏宅)に残っている。1931(昭和6)年5月、長崎市本河内の英彦山麓にポーランド語で“ニエポカラスフ”(けがれなき聖母の園)と呼ぶ聖母の騎士修道院を開いた。神父は6年間、結核と清貧に耐えながら出版布教に尽力した。

1936(昭和11)年、会議のために帰国したコルベ神父は、母国のニエポカラスフ修道院長に選ばれた。彼の心は常に殉教者の国日本に向いていたが、再び帰ることはできなかった。やがて第2次世界大戦が勃発。神父は悲劇のアウシュビッツ収容所に連行されて一人の若い父親の身代わりをすすんで受け、隣人愛に殉じた。ときに1941(昭和16)年8月14日であった。享年47歳。

ローマ教皇庁は1971(昭和46)年10月17日、コルベ神父を「福者」、1982(昭和57)年10月10日、栄誉ある「聖者」の列に加えて、その遺徳をたたえている。

現在、大浦天主堂への参道横に聖母の騎士修道院発祥の地として、聖コルベ記念室が当時の資料と聖コルベの生涯の記録を展示している。



聖コルベ記念室(大浦)



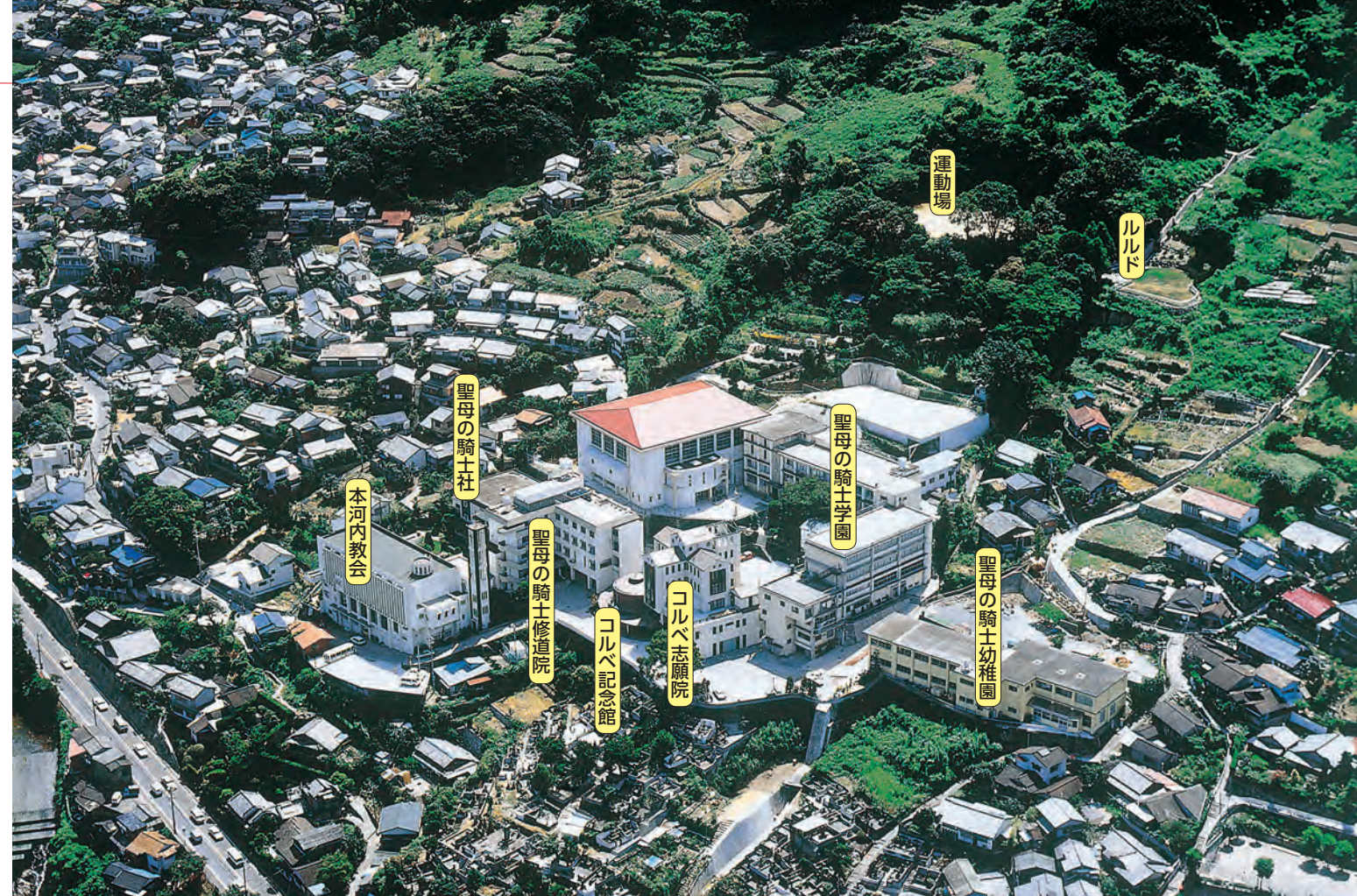
聖コルベ記念館(手前)と聖コルベ志願院



コルベ師の遺品を展示した記念館内



コルベ師が居住した板壁の貴重な部屋



聖母の騎士修道院



聖コルベ記念館入口



聖コルベ資料室



カトリック本河内教会

教皇ヨハネ・パウロ二世は、1981(昭和56)年2月の来日の折、当コルベ小聖堂で祈られた。



聖コルベ小聖堂 (右奥に聖コルベの遺髪)